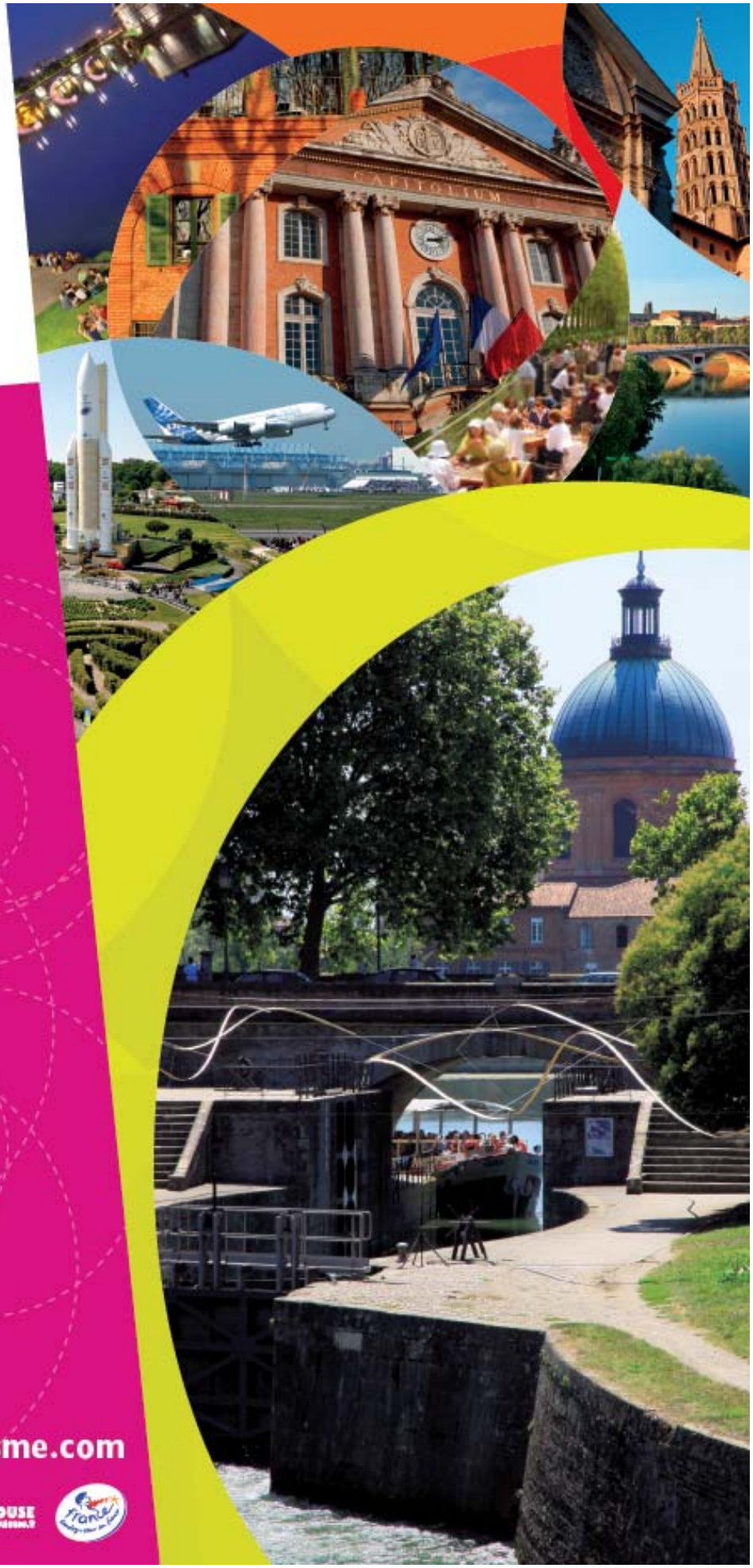
TOURIST OFFICE

So Toulouse!

Press kit

プレス資料



www.toulouse-tourisme.com

Grands Sites de Midi-Pyrénées

MAIRIE DE TOULOUSE www.toulouse.fr

France

トゥールーズへようこそ！

スペインの香りとイタリア様式のファサードに彩られた南仏の町、トゥールーズ。この町はつねに外部の風や文化を積極的に取り入れる一方で、オック地方のアイデンティティを頑なに培ってきました。
トゥールーズはみずからの魅力をその粘土質の大地から引き出しています。赤レンガはこの町に独特の個性をあたえ、「バラ色の町」をつくりだしました。とはいえ、トゥールーズはバラ色にとどまることなく、つねに光と戯れ、色彩をさまざまに変化させながら、訪れた人に絶えず新たな魅力を提案しています。

旅人を一瞬にして魅了するトゥールーズ。しかしその魅力は奥が深く、たやすく尽きるものではありません。まずはキャピトル広場の壮麗さで旅人を驚かせ、鐘楼が建ち、歴史の面影を色濃く残す路地でその心をつかみます。続いてガロンヌ川の岸辺へと導き、ロマンチックな散策をプレゼント。愛の物語はそんな場所から始まることをちゃんと心得ているのです。そしてさらには豊かなライフスタイル、温暖な気候、温かな雰囲気で旅人をつつみ、充実の文化イベントでもてなします。

トゥールーズ生まれのカルロス・ガルデルの歌に乗ってタンゴのステップを刻みながら、さあ、あなたもトゥールーズの町に足を踏み入れてみましょう！　町は訪れた人にスミレの花のブーケ（スミレはトゥールーズのシンボルです）やベルカント、クロード・ヌガロのシャンソン、名高いカスレやソーセージといった美味しい食べ物、そしてもちろんラグビーなど、数々のプレゼントを用意しています。

足はしっかりと大地につけ、頭は高々と星空を見上げているトゥールーズ。みずからの未来をつくりだす力をもつこの町は、フランス第4の規模を誇り（人口445,000人、トゥールーズ都市圏としては910,000人）、21世紀をダイナミックに牽引しています。航空産業のパイオニアであるこの町では今日、世界最大の旅客機エアバスA380や人工衛星が建造されています。さらに89,000人の学生と10,000人の研究者を抱え、情報処理、ロボット工学、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、農業・食品産業、ガンの研究施設オンコポールOncopôleに代表される医療・保健といった数多くの分野で最先端の技術を誇っています。

暮らしやすさと活力あふれる経済に惹かれて、毎年26,500人を超える人が新たにトゥールーズ都市圏に転入しています。そしていずれも、ここミディ・ピレネー地方と、その中心地であり、ヨーロッパを代表する真の大都市トゥールーズに魅了されています。
地中海にもピレネー山脈にも近く、ジェール県、ロット県、アリエージュ県といった本物の魅力を湛えた風土の中心に位置するトゥールーズは、まさに最高のロケーションを誇る観光地です。

トゥールーズへようこそ！

数字で見るトゥールーズ

鍵となる数字

フランス第 4 の都市：人口 445,000 人（トゥールーズ都市圏には 917,000 人）

パリ、モンペリエに次ぐフランス第 3 の大学都市：学生数 89,000 人

フランス最大の地方、ミディ・ピレネー地方の中心都市

ロケーション

- パリの南680km（飛行機で1 時間）
- 地中海から150km（車で1時間）
- 大西洋から250km（車で2 時間 半）
- ピレネー山脈のスキー場から110km（車で1時間半）

日照時間

- 年平均2,027時間

都市交通

- 街路の総延長1,000km
- 駐車可能台数12,000台
- サイクリングロードの総延長228km以上

スポーツ＆レジャー

- グラウンド89カ所
- レジャー施設の面積1,000ha以上
- 公園、庭園、広場160カ所

会議場＆見本市

- 展示場9ha
- 会議場2カ所、収容総人数3,400人

宿泊施設（トゥールーズおよび都市圏）

- ホテル169軒、レジデンス39軒
- 客室14,364 室、アパルトマン3,775室

トゥールーズ・ブラニャック空港

- 第4の規模を誇る地方空港
- 利用者数640万人以上

2011 年の実績

トゥールーズ観光局のデータ

トゥールーズ・ブラニャック空港

利用者数 640 万人以上

宿泊施設

- 宿泊数 : 230 万泊
- うち外国人旅行者による割合 : 22 %
- 客室稼働率: 64 %
- ビジネス客の割合 : 69 %
- 平均宿泊日数 : 1.5 泊

観光局

- **来場者数（キャピトール、ドンジョン内）：** 438,000 人（スペイン人 14%、イギリス人 5%、カナダ人 3%、ドイツ人 3%、アジア人 2%、アメリカ人 2%）
- **Web サイト** www.toulouse-tourisme.com **：** 訪問者数 1,160,000 人 閲覧数 5,325,000 ページ
- **ガイドツアー：** 個人 17,186 人、グループ 55,739 人

おもな観光施設の入場者数

- 市内美術館・博物館：544,058 人
- シテ・ド・レスパス：268,109 人
- サン・セルナン聖堂：224,062 人
- エアバス・ビジット：120,000 人

歴史に彩られた町
古代ローマの都市トロザを起源とする豊穣な過去

❒ 古代ローマ人によるワイン交易の要衝トロザ Tolosa はローマの属州ナルボネンシスでもっとも重要な都市であり、知的活動の中心地でした。市内ピュルパン地区には AD50 年頃に建設されたアレーヌ、つまり円形闘技場の遺跡が残っています。ここは古代の村落の聖地だったとみられ、寺院、市、沐浴場、家屋が建っていたとされています。

❒ 3 世紀に町はキリスト教化しました。250 年、サチュルナン（セルナン）司教が雄牛（トーロー）に体をくくりつけられ殉教します。刑が執行された道はトール通りと名づけられ、11 世紀、この通りの先にかの有名なサン・セルナン聖堂 **basilique Saint-Sernin** が建立されました。この聖堂は西欧ロマネスク建築の最大にしてもっとも美しい建造物とされています。トゥールーズは 4 世紀に西ゴート王国の首都に、次いでフランク王国アクィタニア分王国の首都になりました。

❒ 9 世紀、レイモン 1 世がトゥールーズ伯領を建設します。13 世紀までレイモン家の支配下にあったこの町にはヨーロッパ一華麗な宮廷が置かれていました。また、「キャピトゥール」と呼ばれる参事会員によって、町はイタリアの都市共和国のように統治されていました。

❒ 南仏で盛んだったカタリ派を討伐するために派遣されたアルビジョワ十字軍（13 世紀）で、フランス北部の諸侯たちが南仏になだれ込んできました。この十字軍を指揮したレスター公シモン・ド・モンフォールは 1218 年、トゥールーズの包囲戦で戦死しています。なお、ドミニコ修道会と大学は異端であるカタリ派に対抗するため創設されました。この十字軍以後、南仏の各伯領は支配権をフランス国王に奪われるようになり、1271 年、トゥールーズ伯領もフランス王領に併合されました。

❒ 15 世紀、染料植物パステルの交易がトゥールーズの町と商人に莫大な富をもたらします。青い染料がとれるパステルは当時、ヨーロッパ中で重宝され、「コカス」、あるいは「コカーニュ」と呼ばれる丸い球の状態で取引きされていました（そこからトゥールーズ一帯は「ペイ・ド・コカーニュ/コカーニュの里」と呼ばれるようになりました）。この植物のおかげでトゥールーズは繁栄を謳歌します。16 世紀、豪華な邸宅が“パステル貴族”によって相次いで建てられました。アセザ館やベルニュイ館といった高名な邸宅以外にも、旧市街の細い路地には美しい中庭を備えた小さな宮殿がたくさん残っています。

❒ キャピトル（市庁舎）の中庭にはフランス国王アンリ 4 世の彫像が建っています。まさにこの場所で 1632 年、アンリ 4 世を代父にもつモンモランシー公アンリ 2 世が、まさに代父の彫像の“目の前で”斬首されました。彼はルイ 13 世の家系に連なる人物でしたが、南仏の独立を企てて謀反を起こしたのです。

ヴィア・トロザナ

サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼は中世キリスト教徒にとって重要な意味をもっていました。フランスにはサンティアゴ・デ・コンポステーラへ至る主要な巡礼路が 3 本あり、そのうちの一つが「アルルの道」、つまり「ヴィア・トロザナ」です。トゥールーズを通るこの道はフランス東部全域およびイタリアから来る大勢の巡礼者に利用されました。サン・セルナン聖堂には数多くの聖遺物が、ドラド教会には黒いマリア像があったため、トゥールーズはヴィア・トロザナ屈指の立ち寄りポイントとなります。11 世紀から 12 世紀にかけてこの町は大勢の巡礼者が足を止める宿場町となり、大いに繁栄しました。ここを訪れた巡礼者の手当てや宿泊所として使われた施療院（オテル・デュー）とサン・セルナン聖堂は、巡礼路の歴史に果たしたその重要性からサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路の一部として UNESCO の世界遺産に登録されています。

パステル…トゥールーズの青い金

トゥールーズは 1463 年から 1560 年まで黄金時代を経験します。このルネッサンス期に町は繁栄し、パステル交易の十字路となります。パステル（学名 *Isatis Tinctoria*、アブラナ科タイセイ属）は長いあいだヨーロッパで栽培されてきた染料植物です。まずはこの植物の葉を摘み、粉砕して捏ね、「コック」、あるいは「コカーニュ」と呼ばれる丸い球をつくります。そしてその球から青い染料を抽出し、ラシャを染めました。パステルの栽培にはトゥールーズ周辺の気候と土壌が適しており、アルビ、トゥールーズ、カルカッソンヌを頂点とする三角形に囲まれた地域でとくに盛んでした。そのため一帯には「ペイ・ド・コカーニュ（コカーニュの里）」という呼び名がつけられました。この表現は「豊饒さ」や「地上の楽園」を意味するものとして今もフランス語に残っています。この青い染料の需要は増す一方で、パステルの成功に気をよくしたトゥールーズの商人たちは「パステルの道」を通じたコックの運搬を後押し、ヨーロッパ各地に売買所を設立したほか、トゥールーズにパステル市場を創設しました。そうしてトゥールーズはパステル交易の一大中心地となったのです。この黄金時代は 16 世紀半ばまで続き、トゥールーズの豪商たちはそれぞれ壮麗な邸宅を建て、町を美しく飾りました。パステルは今日、新たな飛躍のときを迎えています。布を染めることでその独特の青を現代に蘇らせているほか、パステルオイルが肌にいいことから化粧品にも使われています。

❒ 1762 年から 1765 年にかけてかの有名なカラス事件が世をにぎわせました。新教徒だったジャン・カラスはトゥールーズの商人で、カトリックに改宗しようとした息子を殺した罪に問われ、死刑に処されます。カラスの弁護を務めたヴォルテールはその死の 3 年後の 1765 年、カラスの免罪を晴らしました。

❒ 革命期に入るとトゥールーズもその動きに同調し、州都としての地位を失います。1790 年には議会と市参事会が解散しました。教会の財産は没収され、それまでは 4 分 1 が教会とその付属施設に使われてきた都市空間のあり方が変わります。宗教施設はその多くが破壊され（大カルメル会修道院）、さらには美術館に変えられたり（聖アウグスティヌス会修道院）、軍に占領されたりしました（ジャコバン修道院）。

❒ 19 世紀、トゥールーズは工業都市に変わります。さまざまな経済活動（シャツ製造業、帽子製造業、馬車製造業）が盛んになり、人口流入が続きました。1856 年の 10 万人から 1886 年の 15 万人と、人口の急増が町の成長を物語っています。そして 20 世紀に入ると大都市の規模にまで発展しました。第 1 次世界大戦を機にトゥールーズは重工業時代へと突入し、火薬、薬莢、航空機の製造が盛んになります。第 1 次世界大戦後、航空機製造会社は航空郵便輸送業に転換。アエロポスタル社が創設されます。一方で労働者階級が力をつけ、都市社会の人民民主主義の傾向が強まりました。急進社会主義の古くからある砦として、トゥールーズはファシズムに迫害されたイタリアの人々やスペインの共和主義者の避難先となり、さらに第 2 次世界大戦中は対独レジスタンス運動の拠点となります。戦後は広大な大学キャンパスの創設と国の機関の再編、地方分散化が相次いで進み（フランス国立民間航空学校 ENAC、国立宇宙航空学校、国立宇宙研究センターCNES、フランス気象局）、さらには「エアバス」プロジェクトやロケット「アリアン」プロジェクトに関連して経済活動が増大したことを受け、人口が大幅に増加。トゥールーズ市だけでは収まらなくなった人口が周辺市町村に流れ出ました。これら“新参のトゥールーズ人”を受け入れるために大々的な都市開発事業が始まり、10 万人が住めるミライユ地区が建設されたほか、市中心部の再開発や古い集合住宅の改修、公共交通機関の拡張、半歩行者専用道路や地下駐車場の整備をはじめとする歴史地区の再編などが実施されました。

❒ この40年間でトゥールーズは大きな変貌を遂げました。人口が増大し、かつその多様化が進んだほか、新しい科学技術が発展しました。さらには都市空間が拡大し、数々の大型文化施設が誕生しています（トゥールーズ国立劇場TNT、ピエール・ボディ会議場、ジョゼ・カバニ・メディアライブラリー、コンサートホール「ル・ゼニット」、宇宙に関するテーマパーク「ラ・シテ・ド・レスパス」、アバトワール近・現代美術館）。こうした変化によってトゥールーズはフランスの「学びの町」ナンバー1の栄誉に輝きました。

トゥールーズ・・・オクシタニアの中心地

トゥールーズはラングドックとガスコーニュの繋ぎ目、オック地方の中心部に位置します。大西洋から地中海まで、さらにはピレネー山脈からアルプス山脈にまで広がる南フランスは中世期、同じ一つのアイデンティティと同じ文化、そして同じ言語（オック語）を共有していました。しかし、オック語が長くこの地で話されてきた言葉であったにもかかわらず、国王フランソワ 1 世は北フランスで使われていたオイル語を王国全土で用いるよう強要します。オック語は少数の話者だけが話す方言でしかなくなりましたが、1950 年代、地方主義の機運によって見直されるようになりました。オクシタニア、つまりオック語が話される地域の中心都市として、トゥールーズはオクシタニアの文化に深く根ざしています。オック語を残そうと多くの学校でこの言葉を教えているほか、さまざまな団体が歌、踊り、音楽、文学を通じてかつての伝統を今に甦らせています。2006 年 12 月 16 日、トゥールーズのオック語文化の窓口となるオスタル・ドクシタニア Ostal d'Occitània がマルクジナ通りにオープンしました。建物は 15 世紀に建てられた邸宅を地元自治体が改修して利用したものです。オスタル・ドクシタニアには現在、オック語に関連した活動を行っている 50 以上の団体が加盟しています。

オクシタニア十字

オクシタニア十字は「トゥールーズ十字」とも「ラングドック十字」とも言われるギリシャ十字（縦、横のアームの長さが同じ十字）の一種で、アームの先端には合計 12 のブランチがついています。12 のブランチはそれぞれ、1 年を構成する 12 の月、日中の 12 時間、さらには黄道 12 宮を象徴しています。この十字は 1211 年、レイモン 6 世の治世下で登場し、トゥールーズの紋章として翻案されました。その後、伯爵の印璽、次いでラングドック州およびその州都トゥールーズのシンボルとして使用されます。そして今日ではトゥールーズ市およびミディ・ピレネー地方の紋章に採用されています。キャピトル広場にあるレイモン・モレッティが制作した巨大なオクシタニア十字は、トゥールーズの人々のオクシタニアのルーツに対するこだわりが表われています。

歴史に彩られた町

比類のない文化遺産に出会う

トゥールーズの観光にわずかな時間しかとれなくても、町の名声を高め、その象徴となっている歴史建造物は必見です。町の歴史保全地区の面積は 200 ヘクタール。フランス最大の面積を誇ります。ライトアップ企画「プラン・リュミエール」で幻想的に演出された夜のトゥールーズもお見逃しなく！

❒ 市庁舎/キャピトル LE CAPITOLE

町のシンボルであり心臓部でもあるキャピトルは、地元の人々にとっても旅行者にとっても一度はかならず足を運ぶ場所。現在トゥールーズ市庁舎として使われているこの建物が今のこの形になったのは、長さ 128m を超えるファサードが完成した 1759 年のことです。ファサードにある 8 本の円柱は、12 世紀以降この町の統治にあたってきた 8 人の参事会員（キャピトゥール）を表しています。内部の部屋は「ジェルヴェの間 salle Gervais」、「アンリ・マルタンの間 salle Henri-Martin」、そしてとくには「名士たちの間 salle des Illustres」に見られるように美しい絵画で飾られています（見学は無料）。建物内にはキャピトル劇場も入っています。

建物の外部では、修復された「アンリ 4 世の中庭 cour Henri IV」と広場が見どころです。モレッティが製作したブロンズ製の「ラングドックの十字」はこの広場の中央に置かれています。現在トゥールーズ観光局が入っている塔（ドンジョン）はかつて監視塔として使われていたほか、古文書の保管場所になっていました。
キャピトル広場の端にあるアーケードの円天井では、モレッティがトゥールーズの歴史を絵で再現しています。カタリ派からカルロス・ガルデルやクロード・ヌガロまで、多彩なモチーフが描かれています。

❒ サン・セルナン聖堂 LA BASILIQUE SAINT-SERNIN

サン・セルナン聖堂はキャピトルに次いでトゥールーズを代表する建築物。サンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路の一部として UNESCO の世界遺産に登録されています。聖堂が建てられたのは 11 世紀。トゥールーズ初の司教で殉教した聖セルナンを偲んでつくられました。現存するロマネスク様式の寺院としてはフランス最大の規模を誇ります。1096 年、まず聖堂の東半分、つまり周歩廊、小聖堂、内陣が完成します。残りの部分——身廊、ファサード、二つの塔はそれよりあと、聖堂参事会員ゲラールによって建設工事が始められました。柱の一つに刻まれた聖クリストフの両足は旅人や巡礼者に幸運をもたらすとされています。聖堂は建設当初から幾度も改修工事を施されてきました。19 世紀の建築家ヴィオレ・ル・デュックも修復を手がけた一人です。その甲斐あって今日でも聖堂は、クロード・ヌガロに“珊瑚の花”と謳われた美しさを湛えています。

❒ ジャコバン修道院 L'ENSEMBLE CONVENTUEL DES JACOBINS

もともと 13 世紀初頭（1229 年）から 14 世紀にかけてつくられたドミニコ会士の修道院だった建物で、ラングドック地方のゴシック芸術を代表する傑作です。修道院を訪れる人の数は年間 139,057 人。内部の壮麗さと外部の峻厳さのコントラストが印象的です。身廊は高さ 22m の円柱で二つの区画に分けられています。また、後陣の円天井のリブは「ジャコバンの椰子の木」としてつとに有名。さらに回廊も、花や動物で飾られた大理石の円柱と柱頭で名声を誇ります。修道院では毎年秋になるとピアノフェスティバル Piano aux Jacobins が開催されているほか、1303 年に建てられた食堂では権威ある展覧会が定期的に開かれています。かつてここがナポレオン軍の軍用馬の厩舎に使われ、ひどい損傷を受けたとはにわかには想像もできないでしょう。建築家ヴィオレ・ル・デュックと、作家であり歴史建造物の保護にあたったプロスペル・メリメの抗議ののち、ようやく建物の改修が図られます。のちにはアンドレ・マルローも修復をバックアップ。改修工事は 1974 年に終了しました。

❒ サン・テティエンヌ大聖 LA CATHÉDRALE SAINT-ÉTIENNE

11 世紀から 16 世紀にかけて建立された未完のトゥールーズ大司教座聖堂です。ユニークなのは、南仏ゴシック様式と北部ゴシック様式が融合しているところ。ほかにも、内部に収められている種類豊富な調度品や 14 世紀のものを含むステンドグラスなどが見どころです。

❒ ミディ運河 LE CANAL DU MIDI

ミディ運河はトゥールーズを通り、大西洋と地中海を結んでいます。1996 年、その壮大さと、運河に設けられた閘門（こうもん）、送水路、橋などの各種工作物が評価され、UNESCO の世界遺産に登録されました。17 世紀、ルイ 14 世の治世のもと、ピエール＝ポール・リケによって建造されたこの運河は、今なお使用可能なものとしてはヨーロッパ最古の歴史を誇ります。運河の建設には 14 年の歳月と 12,000 人の作業員を要しました。総延長は 240 km。点在する 382 の工作物がその建設遺産としての価値を高めています。

大空へはばたく町

飛行機と宇宙に賭ける壮大な冒険

❒ トゥールーズは豊かな過去の遺産を抱えつつ、なによりも未来を志向する町です。個性の際だつ地方の文化に根ざしながらも、未来に向かって果敢に挑戦を続けてきました。航空機産業のパイオニアとしてエアバス社を生み、情報処理および宇宙開発分野の先端企業や各種研究機関が集まるヨーロッパのテクノポールに成長しています。

❒ トゥールーズはその航空産業の牽引役としての使命をごく早い時期から担ってきました。その証拠に1920年代にはすでに、飛行機製造の草分け的存在となっています。それを推し進めたのがピエール＝ジョルジュ・ラテコエールで、彼は1917年、この町に工場をつくりました。これが第1次世界大戦中、軍用機の組み立て工場に変わるのです。大戦後の1927年、彼はアエロポスタル社を設立し、使われなくなった軍用機を用いてトゥールーズからダカールまで郵便物を運ぶ事業を興します。このようにして1920年から1933年にかけて、120人を超える飛行士がトゥールーズにあるモントードラン飛行場から次々に大空へと飛び立ちました。その中にはディディエ・ドーラ、ジャン・メルモーズ、そしてあのアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリがいました。メルモーズによる南大西洋横断飛行の成功を受けて、**アエロポスタル社**はやがてフランスと南米を結ぶ路線を運行します。さらに、南米の各都市を結ぶさまざまな路線を開拓。その中にはアンデス山脈の上空を飛ぶ便もありました。サン＝テグジュペリは当時の飛行の様子を小説『夜間飛行』で詳述しています。

❒ 1930年代、エンジニアのエミール・ドゥヴォワチーヌによって戦闘機の製造が始まりました。有名な戦闘機D-520もここで生産されています。

❒ 第2次世界大戦後、トゥールーズはシュッド・アヴィアシオン社（1970年にアエロスパシアル社に変更）を通じ、民間機分野におけるその地位を決定的なものにします。1955年にはフランス初の中距離ジェット機「カラヴェル」を生産。1969年には超音速旅客機**「コンコルド」**を誕生させ、1972年にはボーイングに対抗するヨーロッパ初の飛行機**「エアバス」**を生み出しました。

❒ 華々しい成功を手にしたトゥールーズは、いまや宇宙開発分野では世界第2位の、航空産業分野ではヨーロッパ第1位の中心地になりました。現在、フランス国立宇宙研究センターCNES、アストリウムAstrium（元マトラMatra）社、タレスThales社の各工場にてアリアンロケットを使って打ち上げる人工衛星が開発、製造されています。

エアバス社見学コース
エアバス・ビジット

エアバス A380 の登場はトゥールーズに欧州航空産業の中心地としてのお墨付きをあたえるもので、科学技術の粋を集め、世界最大の商用機が建造されているラガルデール工場が一躍脚光を浴びました。エアバス・ビジットではA380 の組み立て工程を見学するコース（ジャン＝リュック・ラガルデールのコース circuit Jean-Luc Lagardère）と、エアバス社の 700 ヘクタールの敷地をバスでめぐる展望コース（circuit panoramique）を用意しています。新着情報：2014 年初頭、航空産業博物館アエロスコピア Aéroscopia がオープンする予定。

シテ・ド・レスパス
LA CITÉ DE L'ESPACE

ヨーロッパ唯一の宇宙に関するテーマパーク、シテ・ド・レスパスは見学者に素晴らしい宇宙旅行を提案しています。ここは宇宙を発見、実験、理解するインタラクティブなサイトで、園内ではアリアンロケットの実物大レプリカを目にすることができます。有名な宇宙船ミールの船内に入り、宇宙環境下での宇宙飛行士たちの暮らしや作業について理解を深めることもできます。展示テーマは 8 つ。これらのテーマを通じて、地球を始め地球からもっとも遠い惑星など宇宙の謎に迫ります。最新鋭のオーディオビジュアル技術を備えた 2 つのシアター（IMAX®シネマ/巨大スクリーン＋3D メガネ）とプラネタリウム（360° 半球形スクリーン＋天文シミュレーター）から構成されるシネマコンプレックス「アストラリア」では宇宙にどっぷりと浸ることができます。さらに、宇宙空間を模したプレイランド「小さな宇宙飛行士の広場 Square des petits astronautes」や、不思議な世界で宇宙のヒーローになれる「子ども基地 Base des enfants」、幼児向けプラネタリウム「ステラリウム Stellarium」を通じて、幼い子どもも宇宙探検を味わえます。宇宙開発のタイムリーな話題や天文学に関するイベントや講演会も年間を通じて開催。2012 年のテーマは火星です！ 新着情報：2012 年初めに常設展の内容を一新しました。

文化の薫る町

博物館や美術館が織り成すアンソロジー

❒ トゥールーズを訪れれば、だれもが少なくとも美術館や博物館のひとつに足を運びたくなることでしょう。歳月を通じて町はその歴史の痕跡をとどめおく装置を身につけ、旅人やトゥールーズ市民に古いものから新しいものまで、多種多彩な芸術を紹介しています。美術館や博物館の多くはトゥールーズを代表する建築物の中に入っており、回廊や庭では心地よい休息のひとときが味わえます。

❒ 10年の工事を経て、**トゥールーズ博物館 Muséum**が2008年1月、リニューアルオープンしました。全面的に改修、再編されたこの博物館は、「人間と自然と環境の関わり合い」という統一したテーマを掲げる複数の施設から構成されています。植物園の施設が拡大したことと、マウリーヌ公園parc de la Maourineに新たなスペースが誕生したことが、建築的にも科学的にも、そして学び場としてもフランスでは類を見ないこの野心的な博物館整備プロジェクトの大きな柱となっています（展示室の総面積3,000 m^2、ヨーロッパ最大の鳥類のコレクションであるベソセル財団のものを含む250万種の標本、世界の野菜畑、沼のそばに立つ教育施設など）。

❒ サン・ジョルジュ広場とサン・テティエンヌ大聖堂からすぐのところに**オーギュスタン美術館 musée des Augustins**があります。中世ゴシック様式を代表する古い修道院を利用して1795年に創設されたこの施設はフランス最古の美術館の一つで、革命期に差し押さえられた美術品を収めることでそのコレクションを充実させました。数年前より美術館ではリノベーション戦略に従い、作品の価値をさらに高める工夫を行っています。1階にある彫刻の間は必見。当館所蔵品と外部からの借り入れ品から構成される数々の特別展を通じて、訪れた人はこの極めて充実したコレクションの全貌を見出していきます。ここに収められているのは絵画や彫刻など4,000点以上。ルーベンス、ドラクロワ、コローなどの作品も含まれます。
かつての修道院の庭を囲む回廊にも注目です。恐ろしい姿をしたガーゴイユ（雨樋）がずらりと並び、訪れた人を見下ろしています。
2012年夏：モンペリエのファーブル美術館と提携し、カラヴァジスム（カラヴァジェスティ）をテーマにした世界的規模の展覧会を開催。

❒ オーギュスタン美術館から数百メートル。ガロンヌ川へ向かう途中にアセザ館hôtel d'Assézatがあります。ルネッサンス期に建てられたこの美しい建物には**バンベルグ財団美術館fondation Bemberg**とアカデミー・デ・ジュー・フロローAcadémie des Jeux Floraux（詩歌の振興に努めてきた歴史ある文芸アカデミー）が入っています。この美術館がトゥールーズに開設されたのは、アルゼンチンで成功したドイツ系財閥のメセナによるものです。フランスをこよなく愛したゲオルグ・バンベルグは20歳のとき、200ドルでみずからの初めての蒐集品となるピカソのグワッシュを購入したとされています。1995年よりトゥールーズ市はアセザ館を開放し、バンベルグのコレクションを一般公開しています。コレクションはボナールの30点ほどの絵画やルネッサンス絵画、コロー、ヴァン・ダイク、マネ、ティントレット、セザンヌ、シニャック、ピカソの作品のほか、古い調度品、16世紀から18世紀のブロンズ像やオブジェから構成されています。

❒ ヌフ橋（ポン・ヌフ）を渡れば自然にガロンヌ川岸からアバトワール近・現代美術館musée d'art moderne et contemporain, **les Abattoirs**へと導かれます。ガロンヌ川のヴィグリー港に設けられた遊歩道が散策をさらに心地よいものにしてくれるでしょう。ガロンヌ川に張り出したこの遊歩道は、川岸とアバトワール美術館の近くにあるレイモン6世公園を結ぶためにつくられたもので、美しい右岸の景色が楽しめます。アバトワール美術館は食肉処理場だった建物を利用した美術館で、施設の転用が見事に成功した例です。ここはかつて悪臭のせいで住民に嫌われていた場所でしたが、トゥールーズ生まれの建築家ウルバン・ヴィトリが1828年に設計したもとの構造をほぼそのまま保ちながら、今では洒落た美術館に生まれ変わりました。中央棟には大型の作品を展示する巨大なホールを設け、そのそばには小さな作品を展示する部屋が複数配されています。2階は特別展をいくつか開催するのに使われ、地下は天井高を大きくとり、1965年にピカソみずからがトゥールーズ市に寄贈した彼の舞台幕（リドー）を展示しています。アバトワール美術館は展覧会や2,000点近い常設展示物を通じ、訪れた人に現代アートに親しむ絶好の機会を提案しています。

文化の薫る町

充実の文化イベント

❒ トゥールーズは文化を愛する町。ベルカントとカルロス・ガルデルを生んだこの町は、つねに音楽のトレンドと歩を合わせてきました。キャピトル国立管弦楽団のコンサート、オペラ、演劇、ダンス、展覧会・・・トゥールーズでは文化イベントを一年中楽しむことができます。

❒ トゥールーズは文化活動がもっとも盛んな地方都市の一つと言えるでしょう。美術館や博物館に加え、市内には大小異なる 27 の劇場があります。中でももっとも有名でもっとも権威があるのがキャピトル劇場 **théâtre du Capitole**。市庁舎内に入っているこの劇場は、オペラ、オペレッタ、バレエの舞台となっており、国際的な名声を誇るキャピトル国立管弦楽団の伴奏のもと、レベルの高いプログラムが上演されています。

年間を通じて
さまざまなフェスティバルやイベントを開催

❒ トゥールーズはそこに住む人や旅行者に充実の文化イベントを提案しています。音楽祭、映画祭、コメディーフェスティバル、現代アートフェスティバル、文学フェスティバルなど、いずれも国際的規模をもつユニークなプログラムが四季を通じて一年中目白押し。どれもみなこの町の魅力を発見、あるいは再認識させてくれる貴重なイベントです。

❒ 人気の高いワールドミュージックの祭典リオ・ロコ **Rio Loco** は特定の国をテーマに、毎年 6 月に開催されています。ジャコバン・ピアノフェスティバル **Piano aux Jacobins** ではジャコバン修道院でコンサートを行っています。国際オルガンフェスティバル **Toulouse les Orgues** も開催されています。プランタン・デュ・リール（笑いの春）**Printemps du Rire** はヨーロッパを代表する笑いの祭典になりました。さらにプランタン・ド・セプタンブル（9 月の春）**Printemps de Septembre** はトゥールーズの町を現代アートの空間に様変わりさせます。このようにトゥールーズではテイストの異なる多種多彩なイベントが盛りだくさん。7 月～8 月にはビーチも出現（トゥールーズ・プラージュ **Toulouse Plage**、場所はガロンヌ川沿いのエクスポジシオン公園、ドラド埠頭、ヴィグリー港近く）。12 月にはキャピトル広場にクリスマス市 **marché de Noël** が立ちます。

イリュミネーションに飾られた町

2004 年に始まった「プラン・リュミエール」は都市を光で演出するという大胆かつ独創的なプログラム。最新鋭のテクノロジーを駆使したライトアップを通じて、トゥールーズの秀逸な建築物の美や多様性を最大限に引き出し、トゥールーズの町に昼間とは異なる夜の顔をあたえています。ライトアップはそれぞれの建築物がもつ豊穣なディテールを強調し、見る者が建築物に対して新たな視点をもてるよう巧みにデザインされています。歴史建造物、現代建築、街区、橋、川や運河は夜になると絵画に早変わりし、壮大な都市のフレスコ画を描きます。

暮らしを謳歌する町

フレンドリーな雰囲気と集いを楽しむ精神

❒ トゥールーズは暮らしやすい町・・・そんな評判がありますが、この町に住む人でその言葉を否定する人はいないでしょう。その証拠に、学生だけでなく、航空産業、最先端テクノロジー、気象といった分野の技術者から成る新たな住人たちも、たちまちこの町に魅了されています。トゥールーズに転入してくる人は毎年2万人以上。人々がにぎやかに集うトゥールーズには開放的な南仏の町の趣が色濃く漂っています。

❒ 昼夜を問わず多くの人でにぎわうキャピトル広場はトゥールーズ市民すべてにとっての集いの場所。市場、伝統的な祭り、人道的な集会、慈善イベントなどの会場に使われているほか、ラグビーチーム「スタッド・トゥールーザン」の勝利を祝う場所にもなっています。

❒ キャピトル広場を取り囲むカフェはまさに歴史遺産として今なお健在です。1978年に重要歴史建造物に指定されたバロック様式の装飾をもつカフェ・ビバンcafé Bibentや、カフェ・フロリダcafé Floridaがその代表例。1889年に創業され、トゥールーズ一の歴史を誇るル・ペール・ルイle Père Louisも見逃せません。

❒ 陽気のいい季節になると、市中心部の半歩行者専用道路ではカフェがこぞって道端にテラス席を並べます。レストランは大盛況で、路地もそぞろ歩きをする人でにぎわいます。ウィルソン広場**place Wilson**、サン・ジョルジュ広場**place Saint-Georges**、サン・ピエール広場**place Saint-Pierre**、トリニテ広場**place de La Trinité**などはとくに多くの人が集まる界隈です。夏にはストリートミュージシャンが心惹かれる演奏を披露。トゥールーズではつねにお祭りムードとフレンドリーな雰囲気が一つに溶けあっています。

❒ ガロンヌ川岸にあるサン・ピエール広場place Saint-Pierreにはバー・バスクBar Basqueやシェ・トントンChez Tontonといった有名店があり、学生たちの溜り場となっています。この広場からほんのすぐのところにあるブランシェ通りrue des Blanchersには世界各地の料理が味わえるレストランが数多くあり、グルメを喜ばせています。メトロの二つの路線が交わるジャン・ジョレス地区quartier de Jean-Jaurès/ウィルソン広場place Wilsonは賑やかなナイトスポットで、バー、レストラン、ディスコ、映画館が集まっています。そのほか、ガブリエル・ペリrue Gabriel Péri、rue de la Colombetteコロンベット通りなども人気のある地区です。

市中心部の改修プロジェクト

トゥールーズ市およびトゥールーズ都市共同体により複数の都市開発プロジェクトが実施されています。

❒ **2010 年～2013 年 :**アルザス・ロレーヌ通り（店が建ち並ぶ歩行者専用道路）およびャルル・ド・ゴール広場改修プロジェクト（設計：建築家ブリュノ・フォルティエ）.

❒ **2020 年～2030 年:** 都市の再整備・統合を進める数々のプロジェクト（設計：建築家ジョアン・ビュスケ）
知の町、トゥールーズ：学術地区（サン・ミッシェル）の整備、科学大学機関の統合（プレーヌ・カンピュス）
水の町、トゥールーズ（ガロンヌ川の価値を高めるプロジェクト“アクス・ガロンヌ”）：市中心部からガロンヌ川へ向かう一帯の整備、フヌイエからポルテ・シュル・ガロンヌまで川沿いの遊歩道を整備、ラミエ島の再開発
その他：ジャン・ジョレス通りの改修、ミディ運河の再整備、国鉄（SNCF）マタビオ駅周辺に新地区を整備（2020 年高速列車 TGV 開通）

フランス南西部のガストロノミー

❒ 美食の文化もトゥールーズの豊かなライフスタイルをつくりだす大切な要素です！　かの有名なトゥールーズ産ソーセージ、スミレを使った砂糖菓子、フェネトラ（アーモンドペーストとレモンが入っているケーキ）、そしてもちろん名高いカスレ（地元の食材だけでつくる白インゲン豆の煮込み）など、味しい郷土料理や名産品が目白押し。コンフィ、マグレ、フォワ・グラ、エギュイエット、ジェジエ（砂肝）などアヒルや鴨を使った料理もおすすめです。ミディ・ピレネー地方のさまざま地域でつくられるシャルキュトリー（ソーセージ、ハム、テリーヌなどの肉加工品）や、ロックフォール、ラギオールといったチーズも堪能できます。トゥールーズは伝統料理のみならず新しい味にも貪欲。ミシュランの星をもつ店は市内、郊外を合わせて 6 店（ミシェル・サラン Michel Sarran、ランヒトリオン l'Amphitryon、オ・サヴール Ô Saveurs、アン・マルジュ En Marge、ル・メトロポリタン Le Métropolitan、レ・ジャルダン・ド・ロペラ Les Jardins de l'Opéra）。店選びに迷う食通たちの嬉しい悲鳴が聞こえてきそうです。

❒ トゥールーズにはそのほか、家庭的な店から流行最先端の店まで、いずれもフレンドリーな雰囲気をもつ店がたくさんあり、郷土料理からエスニックまでクオリティーの高いさまざまな料理が食べられます。さらに市内にはシャルキュトリー、チーズ、チョコレート、砂糖菓子などの名品を手がける老舗がいくつかあり、トゥールーズの食どころとしての名声の確立にひと役買っています。また、市場に足を運び、その独特の魅力や開放的な雰囲気を味わうのも幸せなひとときです。トゥールーズにはかつて鉄骨造り（“エッフェル様式”）の市場が 3 つありましたが、現存しているのはサン・シプリアン市場だけ。それでもこの町の市場では多種多彩な品々が並び、それぞれの市がそれぞれの個性と得意客をもっています。
屋内の市：ヴィクトール・ユーゴーVictor Hugo、レ・カルム les Carmes、サン・シプリアン Saint-Cyprien
露天市：ル・クリスタル le Cristal（月曜をのぞく毎朝、大通りにて）、サン・トーバン Saint-Aubin（日曜）、キャピトル広場 Capitole（火曜と土曜にオーガニック市）

トゥールーズ産ソーセージ LA SAUCISSE DE TOULOUSE

1992 年、消費者に品質を保証するためトゥールーズ産ソーセージに認証制度が導入されました。ソーセージはフランス南西部産の豚の肩、腿、胸肉から筋を取り除いた一番いい部分を原材料にし、厳密に定められた製造法にしたがってつくられています。

カスレ LE CASSOULET

トゥールーズの名物料理カスレにソーセージは欠かせません。カスレはトゥールーズ産ソーセージとタルベ産白インゲン豆でつくる煮込み料理です。

カシュ・ラジョニ CACHOU LAJAUNIE

甘草を使った有名なキャンデー、カシュ・ラジョニは 1880 年、トゥールーズの薬剤師、レオン・ラジョニが考案したものです。ほかにも、カラクやパヴェ・デュ・キャピトルといったチョコレート菓子や、伝統菓子フェネトラ、さらには 16 世紀から伝わる薬用成分をもつアペリティフ、カルカードや、アルマニャックをベースにしたアペリティフ、ル・プース・ラピエールなど個性的な味わいをもつ逸品もお試しあれ。

トゥールーズのスミレ LA VIOLETTE DE TOULOUSE

150 年以上前からトゥールーズの農家はさまざまな種類のトゥールーズ産スミレ®を栽培してきました。言い伝えによると、ナポレオン 3 世の軍隊に所属していた一人の兵士がイタリアから愛する人のためにスミレを持ち帰り、それがトゥールーズに根付いたとされています。この香り高い花は冬場に美しいブーケをつくるために栽培されるようになり、その結果、トゥールーズの名声がフランス内外にとどろくようになりました。スミレは今日でもトゥールーズのユニークな特産品となっており、職人たちは伝統を守りながらもオリジナリティーあふれる商品をつくりだしています。ミディ運河に係留された平底船を利用したブティック、メゾン・ド・ラ・ヴィオレット Maison de la Violette は、常設展、ショップ（スミレの砂糖漬け、お茶、チョコレート、香水などを販売）、サロン・ド・テを通じてこのトゥールーズを象徴する花の歴史を紹介しています。

スポーツの町

トゥールーズは 2007 年 10 月、スポーツ誌『レキップ』によりフランスで一番スポーツが盛んな町として評価されました。トゥールーズのスポーツ活動やクラブ活動は種類が豊富でとても充実しています。市内のスポーツクラブの数は 559、加入者は 85,000 人。142 種類を超えるスポーツが楽しめます。さらに市内 76 カ所に 395 のスポーツ施設があり、年間延べ 250 万人が利用しています。

サッカー

現在オリヴィエ・サドランが会長を務めているトゥールーズ・フットボール・クラブ（TFC）のホームスタジアムになっているのがスタジアム・ミュニシパル（37,000 人収容）。1998 年サッカーワールドカップを機に全面的に改修されました。TFCは 2007 年に初めて、権威ある UEFA チャンピオンズリーグの予選出場権を獲得しました。

ラグビー

トゥールーズのラグビーチームは 1907 年に創設されました。当時ラグビーは「フットボール・ラグビー」と呼ばれ、ラ・プレリー・デ・フィルトル公園でプレーされていました。

ラグビーチーム、ル・スタッド・トゥールーザン **Le Stade Toulousain** は二つの学生チームが合体して生まれたものです。学生チームは当時すでに赤と黒のユニフォームで戦っていました。トゥールーズの中心的スポーツとなったラグビーは、この町に数々の優勝カップをもたらしています。ル・スタッド・トゥールーザンは古くからセット・デルニエ Sept-Deniers 地区にあるエルネスト・ワロン・スタッド stade Ernest-Wallon（19,000 人収容）をホームスタジアムにしてきました。1990 年代にはフランス選手権優勝 5 回を誇り、1996 年には初めてヨーロッパ選手権にも優勝しています。ほかにも、フランス選手権優勝 14 回、ヨーロッパ選手権優勝 3 回と、スタッド・トゥールーザンの伝説は尽きません。ここラグビーの聖地トゥールーズで 2007 年にはラグビー・ワールドカップの 4 試合が行われ（日本対フィジー、フランス対ナミビア、ルーマニア対ポルトガル、ニュージーランド対ルーマニア）、町中が興奮と熱気につつまれました。

ル・トゥールーズ・オランピック13
13人制のラグビーリーグフットボールのチーム。何度もフランス選手権で優勝し、その強さから国際的に有名です。

ゴルフ

ゴルフ好きにとって嬉しいことに、トゥールーズとその周辺には 6 つのゴルフ場があります。

❒ **トゥールーズ・シール国際ゴルフ場 Le golf international de Toulouse Seilh**（18 ホール）
トゥールーズへの玄関口に位置するゴルフ場。140 ヘクタールの敷地に 18 ホールのコースが 2 つあります。設計はジャン・ガライアルドとジェレミー・ペルン。

❒ **ヴィエイユ・トゥールーズゴルフ場 Le golf de Vieille-Toulouse**（18 ホール）
バラ色の町トゥールーズを見晴らす美しい景色が楽しめます。

❒ **パルモラゴルフ場 Le golf de Palmola**（18 ホール）
ビュゼ・シュル・タルン Buzet-sur-Tarn にあるゴルフ場。樹齢数百年の森の中にイギリス人マイケル・フェンが設計したチャンピオンシップコースで、『*Golf Européen*』誌によりフランス第 9 位のゴルフコースに選ばれています。

❒ **テウラゴルフ場 Le golf de Téoula**（18 ホール）
トゥールーズから 15 分。美しい緑に囲まれたゴルフ場です。

❒ **ラメゴルフ場 Le golf de la Ramée**（18 ホール）
トゥールーズ市中心部から数分。農家の母屋だった建物の周りに設けられたコースです。

❒ エストロザゴルフ場 **Les golfs Estolosa**（ドレミル・ラファージュ Drémil-Lafage）とサン・ガブリエルゴルフ場 **Saint-Gabriel**（モントラベ Montrabé）には 9 ホールのコースがあります

散策が楽しい町

川の流れに誘われて・・・

ガロンヌ川、ミディ運河、ガロンヌ運河、ブリエンヌ運河が縦横に流れるトゥールーズは水の町です。

❒ ピレネー山脈に源流があるガロンヌ川はボルドーを通り大西洋へと注ぎます。この川はトゥールーズの町と切っても切れない関係にあり、市民にとってはまさに心の川。かつては人や物資を運ぶ大動脈として使われてきましたが、今はもっぱら河川ツーリズムに利用されており、遊覧船（バトー・ムーシュ）、または漕艇や水上スキーを楽しむ人だけに航行が許されています。

❒ ガロンヌ川にはいくつか有名な橋がかかっています。全長 220 m のヌフ橋（ポン・ヌフ）はトゥールーズ最古の橋です。サン・ピエール橋は鉄骨製で 1987 年に建造されました。少し下流にはバザクルと呼ばれる洗い越しがあり、かつてはいつの時代もここでガロンヌ川を渡っていました。12 世紀にはトゥールーズの住民すべてがここにつくられた製粉場（水車小屋）の株を買うことができました。製粉場はヨーロッパ初の株式会社で、会社は 1942 年まで存続しました。

❒ トゥールーズでは埠頭や岸辺を守り、土手や島に緑地、遊歩道、サイクリングロードを整備する事業を進めています。埠頭は 1943 年に保護サイトに指定されました。また、サン・ピエール広場からトゥニ埠頭までの岸辺が整備されています。バザクルの上にあり、かつて水力発電施設だった建物はエスパス・バザクル espace Bazacle という名の展示施設に変わりました。さらに、埠頭はフェスティバルの会場として使われるようになり、例えばプレリー・フィルトル公園では音楽フェスティバル、リオ・ロコが開催されています。

❒ ガロンヌ川に浮かぶラミエ島は年月をかけて徐々にさまざまな娯楽が楽しめる場所に変わりました。スタジアム、ナカシュ市民プール、テニスクラブや漕艇クラブ Rowing Club、複合スポーツクラブ Émulation Nautique などがあるほか、最近ではカジノ劇場バリエール Barrière や見本市会場 le Parc des Expositions も建設されています。

❒ 市の中心部でドラド広場の下方、ガロンヌ川岸にあるドラド港 **le port de la Daurade** は今日、トゥールーズの若者や埠頭を散策する人でにぎわっており、遊覧船バトー・ムーシュの出発地にもなっています。ここは中世にはすでに、地元の商業活動を支える港になっており、その後はガロンヌ川とミディ運河をつなぐ橋渡しの役目を担いました。

❒ クロード・ヌガロが“緑の水”と謳った**ミディ運河 canal du Midi** の土手沿いを進めばトゥールーズの町を横断することができます。立ち並ぶプラタナスが涼しい木陰をつくりだしてくれるこの美しい道は散歩やサイクリングに理想的（サイクリングロードあり）。バトー・ムーシュで運河のクルージングも楽しめます。

❒ **ブリエンヌ運河 Le canal de Brienne**
1770 年～1776 年にロメニー・ド・ビリエンヌ枢機卿によって建設された運河で、ミディ運河とガロンヌ川をつないでいます。

❒ **ガロンヌ運河 Le canal latéral à la Garonne**
ガロンヌ川に並行して走るこの運河は 1838 年～1856 年に建設されました。それ以前は地中海からミディ運河でトゥールーズまで行き、そこからボルドーまでガロンヌ川を航行していました。しかしガロンヌ川は航行が難しかったため、早期にミディ運河を延長する必要がありました。ガロンヌ運河の完成により、地中海と大西洋を結ぶ運河が完成したのです（ミディ運河とガロンヌ運河を合わせて「カナル・デ・ドゥー・メール canal des Deux-Mers/二つの海を結ぶ運河」と呼んでいます）。

❒ アンブシュール係船池 **Le Bassin de l'Embouchure** はトゥールーズの 3 本の運河――ミディ運河、ブリエンヌ運河、ガロンヌ運河が交わる中継池です。運河はレ・ポン・ジュモー（「双子橋」の意）をくぐって池の内部に達します。この橋を飾る、イタリア・カッラーラ産の大理石に彫られたレリーフは有名。オック地方とガロンヌ川を表す寓意画を通じて、連結する水路を表現しています。

❒ **サン・ソヴール港および港湾事務所 Le port Saint-Sauveur et la Capitainerie**
市内歴史地区のすぐそばにあるこのマリーナには 40 隻の船が係留できます。

おすすめの観光コース

1 / 市内散策

トゥールーズ市は早い段階から遊歩道や散策コースを整備してきました。サン・ローム通りやフィラティエ通りを皮切りに、市中心部の道を歩行者専用道路に整備する取り組みが始まったのは今から約 30 年前。その後、整備面積が拡大し、いまや市中心部の 10 ヘクタール以上が歩行者専用ゾーンに変わっています。車を気にせずに観光ができ、歴史建造物や観光名所のほとんどを徒歩でめぐれるため、旅行者に大変喜ばれています。最近では、散策を楽しむ人や買い物客で非常ににぎわうアルザス・ロレーヌ通りが半遊歩道化されました。

サン・セルナン聖堂周辺
サン・セルナン地区はローマ時代の都市の北側に広がる形で発展しました。トゥールーズ大学の創設後（1229 年）、教育施設と学生の住居がこの地区に集中します。キャピトル広場からは有名なトール通りを通ってこの界隈へと向かいます。今日、この地区にはトゥールーズ第 1 大学（社会科学系）、政治学院、国立高等視覚芸術学校（ENSAV）、サン・セルナン高校、オゼンヌ高校、図書館、シネマライブラリー、サン・レイモン博物館 musée Saint-Raymond などが集まっています。また、美しい宗教建築物（サン・セルナン聖堂 basilique Saint- Sernin、ノートル・ダム・デュ・トール教会 église Notre-Dame-du-Taur、サン・ピエール・デ・シャルトルー教会 église Saint-Pierre des Chartreux、サン・ピエール・デ・キュイジーヌ教会 église Saint-Pierre des Cuisines）も見ることができます。

サン・テティエンヌ大聖堂周辺
歴史愛好家におすすめの地区。サン・テティエンヌ大聖堂 cathédrale Saint-Étienne やクロワ・バラゴン通り rue Croix-Baragnon などには秀逸な歴史建造物が数多く残っています：ヴュー・レザン邸 hôtel du Vieux-Raisin（36 rue du Languedoc）、ダユ邸 hôtel Dahus（トルヌール塔、9 rue Ozenne）、ウルモ邸 hôtel d'Ulmo（15 rue Ninau）、レシュ・ド・プノティエ邸 hôtel de Rech de Penautier（16 rue Vélane）、ジャン・ド・マンサンカル邸 hôtel Jean de Mansencal（1 rue Espinasse）など。

グラン・ロン広場、植物園、ロワイヤル公園
サン・テティエンヌ地区に隣接するグラン・ロン地区は緑を満喫する散策に理想的なスポットです。ロワイヤル公園 jardin Royal と植物園 jardin des Plantes は歩道橋で結ばれています。この二つの広大な公園はどちらもその 200 年以上の歴史の名残をとどめています。

噴水
市内の随所で見られる噴水はトゥールーズが古代ローマの町だったことを思い起こさせてくれます。デュピュイの泉 fontaine Dupuy（市内最大）、サン・テティエンヌの泉 fontaine Saint-Étienne（市内最古）、トリニテの泉 fontaine de la Trinité（トゥールーズ初の水がほとばしり出るタイプの装飾噴水）などが有名です。

2 / トゥールーズ観光局が提案する観光プロダクト

ガイドツアー
トゥールーズではそぞろ歩きも“生活のアート（アール・ド・ヴィーヴル）”です。訪れた人はきっとこの町に心を奪われることでしょう・・・。トゥールーズ観光局では年間を通じて多数のガイドツアーを開催しています。どれもみな、歴史地区の温かい雰囲気に浸り、数々の魅力に触れるのにうってつけのプランです。さらに、観光局のレセプション担当部署ではグループを対象にした各種観光パッケージやアラカルトのプランをご用意しています。
個人向け、グループ向けに一年を通じて開催されている各種ガイドツアーは、名高い歴史建造物の見学から知る人ぞ知る秘密の観光スポットの探訪まで、多種多彩な内容を誇っています！

観光パス「ル・パス・トゥーリスムLE PASS TOURISME」（2012年新登場）
トゥールーズを賢く観光するのに欠かせないフリーパス。各種観光サイトや提携施設に無料、または割引料金で入場できます（状況に応じて変更あり）。さらに、トゥールーズ都市圏をカバーするTisséo公社の公共交通機関が乗り放題。パスは持ち主本人だけが使用でき、1日パス、2日パス、3日パスがあります。Tisséo（地下鉄、トラム、バス、空港～市内シャトルバス）を利用するときや提携施設の入り口で必ずご提示ください。
1日/18€、2 日/25 €、3日/32 €
*トゥールーズ観光局および*Tisséoの各窓口にて販売

予約センター「レザトゥールーズRÉSATOULOUSE 」
2010年7月1日、予約センター（レザトゥールーズ）がサービスを開始しました。これはトゥールーズの観光セクターの振興を図る新しい販売ツールです。予約はインターネット（www.toulouse-tourisme.com）、観光局（キャピトルにあるドンジョン内）の窓口、コールセンター（tel:+33 540 131 531）を通じて受け付けており、宿泊施設のほか、観光アクティビティ（クルージング、シテ・ド・レスパス見学、ワインのテイスティング、スパ、観劇など）を無料で予約することができます。その他、多種多彩なプラン（グルメ、エステ、文化、スポーツなど）を提案。さまざまなご要望にお応えします。

トゥールーズお役立ち情報

1 / アクセス

飛行機

トゥールーズ・ブラニャック空港

パリ・シャルル・ドゴール空港およびパリ・オルリー空港からエールフランス航空とイージージェットの定期便あり。

乗り入れ都市（フランス国内）：アジャクシオ、クレルモン・フェラン、リール、リヨン、マルセイユ、メッツ・ナンシー、ミュルーズ、ナント、ニース、ランス、レンヌ、サン・ドニ・ド・ラ・レユニオン、ストラスブール

Tel : 08 25 38 00 00 （0.15€/分）
www.toulouse.aeroport.fr

空港から市中心部までを結ぶシャトルバスあり。20分間隔で運行。
www.tisseo.fr / Tel : 05 61 41 70 70

空港ホールにレンタカー会社のカウンターあり。

鉄道

国鉄（SNCF）マタビオ　駅

パリからの直通TGV（高速列車）：5時間30分
ボルドーから1時間50分

直通列車：リール（7時間30分）、リヨン（4時間）、マルセイユ（3時間40分）、ニース、ナント、ビアリッツ、アンダイエ、ブリーヴ、リモージュ

Tel : 36 35 / www.voyages-sncf.com

車

高速道路

高速A61号線（カルカッソンヌ、モンペリエ、バルセロナ）
高速A62号線（ボルドー、リモージュ、パリ）
高速A64号線（ルルド、バイヨンヌ、サン・セバスティアン）
高速A68号線（アルビ）
高速A66号線（パミエ、フォワ、アンドラ）

2 / 市内の移動手段

地下鉄

A線、B線の2路線： www.tisseo.fr
A線［バソ・カンボBasso Cambo/バルマ・グラモンBalma-Gramont］ 市南西部～北東部を結ぶ路線
B線［ボルドルージュBorderouge/ラモンヴィルRamonville］
市北部～南部を結ぶ路線
地下鉄は日曜から木曜までは朝5時15分から深夜0時まで、金曜と土曜は翌1時まで運行。
駅周辺に無料駐車場あり。
各駅には現代アートの作品が飾られている。

バス

市内および近郊各地を結ぶ83路線を運行- www.tisseo.fr

ティセオTISSÉO公社の無料シャトルバス

シャトル（電気バス）が無料でトゥールーズ市中心部を走っている。運行は月曜～土曜の9時～19時。約15分間隔。停留所は6カ所：ディロン通りcours Dillon、ヌフ橋Pont-Neuf、サランSalin、議会Parlement、カルムCarmes、ウィルソン広場place Wilson、トゥールーズ第1大学Université des Sciences Sociales

トラム（T1 線）

車から公共交通機関への乗り継ぎを促進する目的でアエロコンステラシオン駅に 300 台、アレーヌ駅に 600 台収容の駐車場を整備。運行時間は朝 4 時 15 分～翌 0 時 45 分、金曜と土曜は～翌 1 時 45 分

自転車

全長228 kmのサイクリングロードを整備。市では自転車の自動レンタルシステム「ヴェロトゥールーズ」を導入。247ステーションで2,400台の自転車が貸し出されている。www.velo.toulouse.fr
メゾン・デュ・ヴェロMaison du Véloでもレンタル可能
www.maisonduvelotoulouse.com

観光タクシー

オーディオガイドを聞きながら市中心部をめぐる観光タクシーあり（対応言語：フランス語、英語、ドイツ語、スペイン語、日本語）。
問い合わせ先：トゥールーズ観光局
キャピトル・タクシーCapitole Taxi (Tel : 05 34 250 250)
ラディオ・タクシー・トゥールーザンRadio Taxis Toulousains (Tel : 05 61 42 38 38)
ラ・トゥールーゼンヌ・デ・タクシーLa Toulousaine des Taxis (Tel : 05 61 20 90 00)

観光ミニトレイン

観光名所をめぐるオーディオガイドのついた観光ミニトレイン
Tel : 05 62 71 08 51
6/1 ～ 9/30は毎日10 時30分、12時30分、14 時、18時 30分 のスケジュールで運行。
11月15日～3月15日は休業。

トゥールーズ観光局

OFFICE DE TOURISME DE TOULOUSE

Donjon du Capitole
Square du général Charles-de-Gaulle
BP 38 001
31080 Toulouse Cedex 6
FRANCE

Tel : +33 (0)5 40 13 15 31
Fax : +33 (0)5 61 23 74 97

www.toulouse-tourisme.com

N° AU : 031 04 0001

営業時間（12月25日および1月1日を除く）

6月1日～9月30日
月～土：9時～19時
日および祭日：10時30分～17時15分

10月1日～5月31日
月～金：9時～18時
土：9 時～12 時30分、14時～18時
日および祭日： 10 時 ～ 12 時 30 分、14 時～17 時

連絡先：メリッサ・ビュッテリ Mélissa BUTTELLI

Tel : +33 (0)5 61 11 02 36 / Email : m.buttelli@toulouse-tourisme.com